

教育学部におけるコースツリーの 作成について

服部憲児(教育学研究科)

平成26年度FD研究検討委員会「コースツリー」勉強会

140722@百周年時計台記念館

はじめに

おことわり

- 教育学部・比較教育政策学講座関係の授業をもとに例として作成したものです。
- 作成手順も一例です。(省略できる部分もあります)

作成の際に留意したこと

- 慣例な履修システムの視覚化(科目系統図の作成)
- 学習者の立場に立って考えてみること

作成の手順(教育学部の場合)

- ①ディプロマポリシー(DP)を学生主語に置き換える。
 - ・DPの要素を分解する:知識・技能・関心
 - ・学生主語への置き換え:学生が~できる
 - ※可能な限り測定可能なものに
- ②教育目標の設定
- ③カリキュラムマップの作成
- ④コースツリー(フローチャート)の作成
- ⑤課題の明確化(~適切な時期に改善)

作業1. 教育学部のディプロマ・ポリシー(以下、「DP」)を、学生主語に書き換える。

(※これを構成員間で議論して時間をかけて行う。場合によってはDPの修正が必要になる。)

本学部の教育目的で明示されている、心・人間・社会についての専門的識見、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考力と批判的判断力、人間らしさを擁護し促進する態度、が学習成果として実現されているかどうか、さらにはその結果として地球社会の調和ある共存に貢献できる人材となっているかどうか、課程修了の具体的な目安

1-(1). DPの要素を分解する。

- | | | | | |
|------------------------|---------------------|-----------------------------|----------------------|------------------------------|
| ①
心・人間・社会についての専門的識見 | ②
広い視野と異質なものへの理解 | ③
多面的・総合的な思考力と批判的
判断力 | ④
人間らしさを擁護し促進する態度 | ⑤
地球社会の調和ある共存に貢献
できる人材 |
|------------------------|---------------------|-----------------------------|----------------------|------------------------------|

1-(2). 学生主語に書き換える。(※可能な限り測定可能なものにする。)

- | | | | | |
|---|--------------------------------------|--|-------------------------------|-----------------------------|
| ①
心・人間・社会に関する事象につ
いて専門的見地から説明できる。 | ②
広い視野にたつて異質なものを理
解し、公正に説明できる。 | ③
教育に関する事象について、批判
的に思考し、多面的・総合的に検
討・判断することができる。 | ④
人間らしさを擁護し促進すること
ができる。 | ⑤
地球社会の調和ある共存に貢献
できる。 |
|---|--------------------------------------|--|-------------------------------|-----------------------------|

作業2. 学部のDPと講座のDPの整合性を図りつつ、教育目標を設定する。(※講座のDPが未確定のため、HP上で公開されている「本講座の研究内容」を活用し

本講座の研究内容は、

- (1)国際的ないし世界的視野に立って、各国民・民族の教育制度、政策、実践、理論について比較考察をすること、
 - (2)政策科学的視点からの教育組織体における政策形成・実施過程・評価のシステムを解明すること、
 - (3)(1)、(2)を踏まえて具体的・実践的な教育計画・教育のあり方を探求することである。
- こうした研究機能は、講座内の2つの研究室(比較教育学研究室、教育行政学研究室)によって分担されている。

- | | | | | |
|--|--|---|--|---|
| ①
教育制度・政策・実践(以下「教育
制度等」)について、専門的理論を
用いて説明できる。 | ②
国際的・世界的視野に立って、教
育制度等を比較分析により説明で
きる。 | ③
教育制度等について批判的に分
析し、政策科学的視点から多面
的・総合的に考察できる。 | ④
人間らしさを擁護し促進すること
ができる。
(※学部版をそのまま使用) | ⑤
国際的・世界的な観点から、教育
計画・教育の在り方に対する見解
を明示することができる。 |
|--|--|---|--|---|

※教育目標は、各授業レベルで測定可能なものに落とし込む必要がある。

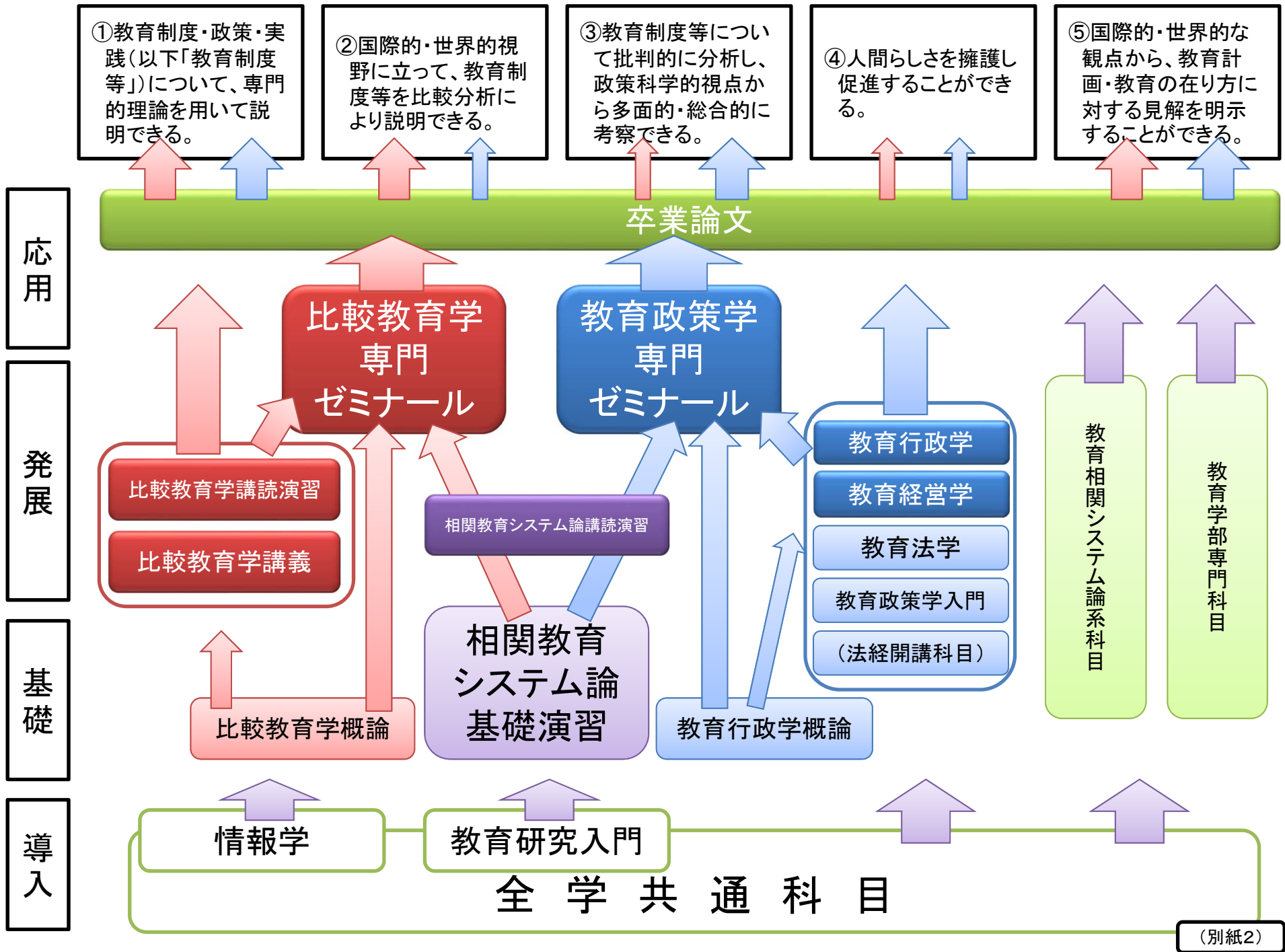
作業3. 各授業が講座の教育目標(上記枠内①～⑤)のどれを育成するかの一覧表を作成する。(別紙1)

作業4. 上記の作業を踏まえてカリキュラムのフローチャートを作成(別紙2)

作業5. 以上の作業過程において明らかになった教育上の課題を明確化し、適切な時期に改善を図る。

- ・共通教育科目の履修指導の在り方
- ・教育目標④を達成するための授業科目の不足

						(別紙1)
配当 学年	授業名	①教育制度・政策・実践 (以下「教育制度等」)につ いて、専門的理論を用いて 説明できる。	②国際的・世界的視野に 立って、教育制度等を比較 分析により説明できる。	③教育制度等について批 判的に分析し、政策科学的 視点から多面的・総合的に 考察できる。	④人間らしさを擁護し促進 することができる。	⑤国際的・世界的な観点か ら、教育計画・教育の在り 方に対する見解を明示する ことができる。
1	(全学共通科目)				○	
1	教育研究入門(Ⅰ・Ⅱ)	○				
1	情報学(Ⅰ・Ⅱ)			○		
2・3	(教育学部専門科目)				○	○
2・3	(相関教育システム論系科目)	○				○
2	比較教育学概論(Ⅰ・Ⅱ)	◎	○	◎		◎
3	比較教育学講義	◎	◎	○		◎
2	教育行政学概論(Ⅰ・Ⅱ)	◎	○	◎		◎
2・3	(法経開講科目)	○		○		
2	教育政策学入門	◎	○	◎		◎
3	教育行政学	◎	○	◎		◎
2	教育法学	◎	○	○	○	○
3	教育経営学(Ⅰ・Ⅱ)	◎	○	◎		◎
3	比較教育学専門ゼミナール	◎	◎	○	○	◎
3	比較教育学講読演習	◎	◎	○	○	◎
3	教育政策学専門ゼミナール(Ⅰ・Ⅱ)	◎	○	◎	○	◎
2	相関教育システム論基礎演習Ⅲ	◎	◎	◎	○	◎
3	相関教育システム論講読演習Ⅲ	◎	◎	◎	○	◎
4	卒業論文	◎	◎	◎	○	◎
					「◎」…当該教育目標の達成を主たる目的とする科目	
					「○」…当該教育目標を一定程度達成できる科目	



作成作業を通して得られたこと

- カリキュラム上の課題把握
 - 授業の位置づけに関する理解
-

今後の予定

- 学部全体(または系別)のコースツリーの作成
- DPの再検討